

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

豊明市総合戦略推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県豊明市

3 地域再生計画の区域

愛知県豊明市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の総人口は、1958年から1980年にかけて急激に増加し、その後は緩やかな増加傾向を示していたが、2020年の69,295人（国勢調査結果）をピークに減少に転じており、住民基本台帳によると、2025年には67,768人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年には63,410人となる見込みである。

年齢3区分別人口の推移をみると、「15歳未満以下」は1980年の15,113人がピークであり、2020年には8,577人まで減少し、ピークの6割弱となっている。「15～64歳」は1995年まで増加し、47,741人をピークに減少に転じている。「65歳以上」は1970年以降、一貫して増加傾向にあるが、特に近年の伸びが著しい状況であり、2005年には「15歳未満」の人口規模を逆転し、2020年には18,123人まで達している。

自然動態について、2018年以降は2020年を除き自然減の状態が続いている。本市における出生数は、2013年以降は2017年を除き600人を下回っている。一方、死亡数は増加傾向にあり、2021年には600人あまりであったが、その後2022年には700人にまで増加し、自然減の急速な進行の要因となっている。2024年には312人の自然減となっている。なお、合計特殊出生率については、本市は1.51であり（人口動態保健所・市町村別統計2018～2022年ベース推定値）全国の1.33、愛知県の1.44を上回る水準になっている。但し、隣接市区では、名古屋市緑区

1.56、大府市 1.72、刈谷市 1.61 と、高い水準にあり、近隣市区に比べ本市の合計特殊出生率は低い状況にある。

社会動態について、転入及び転出の規模は 3,000 人を越えており、出生数や死亡数の 5 倍以上となっている。2015 年から 2019 年までは概ね転入者が転出者を上回る転入超過の状態であったものの、2020 年以降は転出超過となり社会減の状態である。2018 年から 2023 年までの年齢 5 歳階級別人口増減について、若年層でみると 25-29 歳から 30-34 歳で男性が増加している一方で、女性は減少している。このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）や、住宅取得を契機とした転出が増加傾向にあり、若いファミリー世代が減少（社会減）したこと等が原因と考えられる。

人口減少や少子高齢化が進むにつれ、扶助費の増大や市税の低下による行政サービスの水準の低下、ファミリー世代の減少による産業の担い手の不足、ひいては地域経済の衰退が懸念される。

これらの課題を解決するため、本計画において、次の事項を基本目標に掲げ、市外への人口流出を抑制し、市内に継続して住み続けることができる環境の整備を進めるとともに、道路や公園等の都市基盤の整備と良好な居住環境の創出を図ることで、子育て世代に選ばれ、住み続けたくなるまちを目指す。

- ・基本目標 1 子どもの育ちと学び創生プロジェクト
- ・基本目標 2 暮らしの安心創生プロジェクト
- ・基本目標 3 安全で快適な地域環境創生プロジェクト
- ・基本目標 4 ひとが集うまち創生プロジェクト

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2031年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	こどもが心豊かに育ち、 子育て世代が住み続けら れるまちだと思ふ市民の	73.3%	78.8%	基本目標 1

	割合			
	多様性を尊重した学びの場が広がり、子どもたちが一人残らず心満たされるまちだと思ふ市民の割合	45.1%	57.3%	
	自分のことが好きな子どもの割合	74.4%	80.8%	
	0～14歳の子どもの数	8,250人	8,064人※	
イ	医療や介護の環境が整っており、誰もが安心して暮らせるまちだと思ふ市民の割合	73.2%	79.6%	基本目標 2
	人と人が寄り添い、つながりながら支えあうまちだと思ふ市民の割合	52.7%	58.3%	
	誰もが健康で楽しく活動できるまちだと思ふ市民の割合	61.7%	66.3%	
ウ	お互いを尊重し、それぞれの個性や強みを活かしてつながりあえる安全安心なまちだと思ふ市民の割合	58.0%	64.8%	基本目標 3
	気軽に外出でき、生活しやすいきれいなまちだと思ふ市民の割合	78.9%	83.8%	
	いつまでも住み続けられる、安全で快適なまちだ	75.2%	81.0%	

	と思う市民の割合			
	転入超過数（転入者数-転出者数）	-212人	1,800人 (累計)	
エ	歴史や文化が受け継がれ、地元愛あふれ訪れたいまちだと思う市民の割合	46.2%	52.8%	基本目標4
	自分らしく働く場所があり、産業が盛んな活気あるまちだと思う市民の割合	29.2%	37.8%	

※下げ幅を抑える指標

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

豊明市まち・ひと・しごと創生事業

ア 子どもの育ちと学び創生プロジェクト事業

イ 暮らしの安心創生プロジェクト事業

ウ 安全で快適な地域環境創生プロジェクト事業

エ ひとが集うまち創生プロジェクト事業

② 事業の内容

ア 子どもの育ちと学び創生プロジェクト事業

子どもが自分自身を肯定し、自分らしく過ごすための環境づくりに取り組めます。また、子育てをする人が安心して子どもを産み育てられる

まちをつくり、地域ぐるみで子どもを支え、見守るといった子どもの周辺環境を整えるための取り組みを推進します。

【具体的な事業】

- ・ 児童館運営事業
- ・ 地域クラブ運営事業
- ・ 保育所整備事業
- ・ 日本語指導支援事業 等

イ 暮らしの安心創生事業

誰もが「ふつうに暮らせるしあわせ」を実感できるまちづくりをより一層進めるとともに、市民一人ひとりが生きがいを持ち、支えあいながら、元気で楽しく過ごすための取り組みを行います。

【具体的な事業】

- ・ 重層的支援体制整備事業
- ・ 医療介護連携推進事業
- ・ 共生交流プラザ運営事業
- 等

ウ 安全で快適な地域環境創生プロジェクト事業

便利で快適なまちづくりを自然環境と調和しながら進めるとともに、多様な人が関わる機会を充実させ、地域のつながりを育むための取り組みを進めます。

【具体的な事業】

- ・ ひまわりバス運行事業
- ・ 居住系市街地整備事業
- ・ 公園施設整備事業
- ・ 市民活動団体支援事業 等

エ ひとが集うまち創生プロジェクト事業

地域への誇りや愛着を育むための取り組み、市内外から人が集う魅力を磨き上げるとともに、市内で働きたくなる、働く場所として選ばれるためのまちづくりに取り組みます。

【具体的な事業】

- ・古戦場まつり開催事業
- ・花で起こす！豊明ローカルイノベーション事業
- ・起業・創業支援事業
- ・子連れ出勤普及啓発事業 等

※ なお、詳細は第3期豊明市総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

9,000,000千円（2026年度～2031年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C Aサイクル）

毎年度7・8月頃（開催時期については状況により変更する場合がある）に有識者や市民公募委員で構成する「豊明市総合計画審議会」にて、施策・事業の進捗状況や数値目標、重要業績評価指標（K P I）の達成状況についての検証を行うとともに、必要に応じて施策・事業を見直す。検証後速やかに豊明市公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2026年4月1日から2032年3月31日まで

6 計画期間

2026年4月1日から2032年3月31日まで